

## 2026年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

[記：山口県医師会副会長／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦]

2023年のスギ花粉総数は、県内測定機関の平均値として、山口県での史上最多の6,430個/cm<sup>2</sup>でした。2023年の夏は、その時点で観測史上最も暑い夏でしたが、2024年のスギ花粉飛散総数は県内測定機関の平均値として1,940個/cm<sup>2</sup>程度で、平年値（直近10年間の平均値：3,260個/cm<sup>2</sup>）の60%弱の値となりました。2024年の夏は、前年をさらに上回る最も暑い夏となりました。2025年のスギ花粉飛散総数は、予測5,100個/cm<sup>2</sup>程度に対し、それを上回る6,267個/cm<sup>2</sup>となりましたが、その値は2023年、2019年（6,288個/cm<sup>2</sup>）に次ぐ3番目の多さでした（図1）。

2025年の夏は、史上最高の猛暑を再び更新しました。今シーズンの定点木の観察では、スギ着花状態は昨シーズンと比べると劣るもの、多くの雄花を着けている木が少なからず認められ（図2～7）、従来どおりの方法で予測しましたところ、スギの予測総数は3,600個/cm<sup>2</sup>程度となりました（図8）。この値はほぼ平年値（3,674個/cm<sup>2</sup>）ですが、この20年間で平年値は年々増え続け、倍にまで増加してきているため、決し

て少ない値ではありません（図9）。史上最多飛散の2023年の翌年のような「小休止」とはならないと思われ、十分な対策が必要です。

一方、2025年のヒノキも、飛散総数は3,913個/cm<sup>2</sup>（平年値1,805個/cm<sup>2</sup>の2倍以上）と、2023年の4,696個/cm<sup>2</sup>、2018年の4,150個/cm<sup>2</sup>に次ぐ、3番目の多さでした（図1）。ヒノキの予測はこの時期には困難ですが、前年と比べると花芽は少なめのように思われました（図10、11）。ちなみに、今シーズンを迎えてのヒノキの平年値は、1,805個/cm<sup>2</sup>となります。

ところで、昨シーズンの飛散開始日は、北部の1測定機関で1月5日、中部の1測定機関で1月6日に早々とその定義に該当しましたが、例年と比べてあまりに早いため、その後の花粉数の推移を見守っていました。1月17日に東京都が1月8日のスギ花粉飛散開始を発表しましたので、山口県医師会も1月20日に、1月5日を山口県の飛散開始日とすることを宣言しましたが、その後花粉飛散は増えず、結局、多くの測定機関で飛散開始の定義に該当したのは、東部と中部は

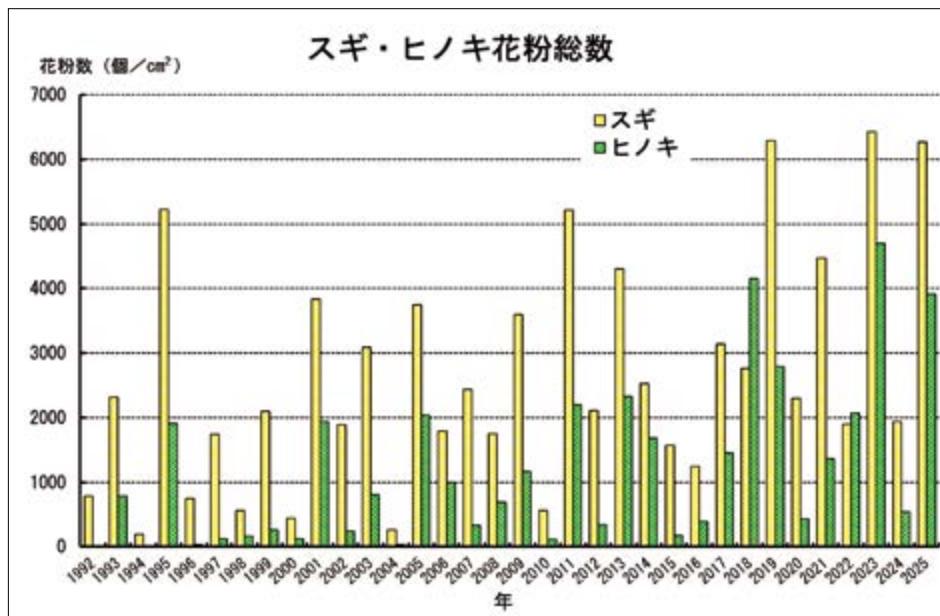


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数 2025まで

2月16日、西部は2月14日、北部は2月15日でした。

秋にもスギ花粉が飛散するのですが、昨シーズンは多数の雄花が着いていましたので、その前年の11月から12月にかけても例年よりも多くのスギ花粉が飛散しました。年明け早々のスギ花粉捕集は秋からの飛散の流れによるものと思われます。

このような1月早々の飛散開始は山口、東京

だけでなく、関東地方の別の複数の地区でも確認されたようですが、日本花粉学会花粉情報等標準化委員会は、この度のあまりに早い飛散開始を問題視し、2025年3月15日に、花粉飛散開始日の定義を次のように変更することを決定しました。

「スギ花粉の飛散開始日は1月以降1平方cmの花粉数が1個以上連続した初日とする。ただし、該当する開始日が過去10年の平均値より1か月



図2 kzm 地点のスギ (2024年秋)



図3 kzm 地点のスギ (2025年秋)



図4 ms 地点のスギ (2024年秋)



図5 ms 地点のスギ (2025年秋)



図6 mt 地点のスギ (2024年秋)



図7 mt 地点のスギ (2025年秋)

前後早い場合であって、その後の花粉飛散状況においてゼロ個が多い状態であれば、不時現象とし、2回目に1個以上の花粉が連続した場合を統計上の飛散開始日とする。」

山口県医師会花粉情報委員会もこの決定に従いますので、状況によっては花粉飛散開始宣言の発出が遅れることもあり得ます。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

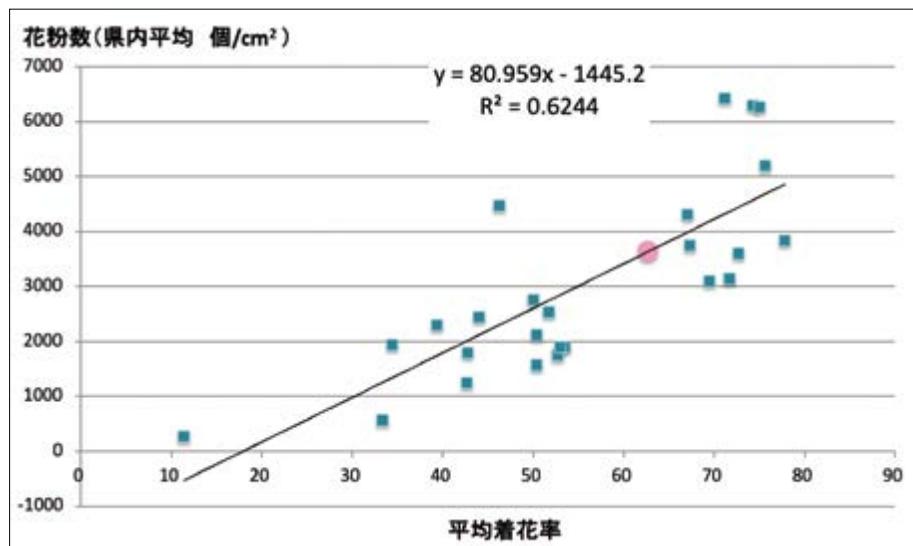


図8 スギ花粉総数予測 2026 一次関数

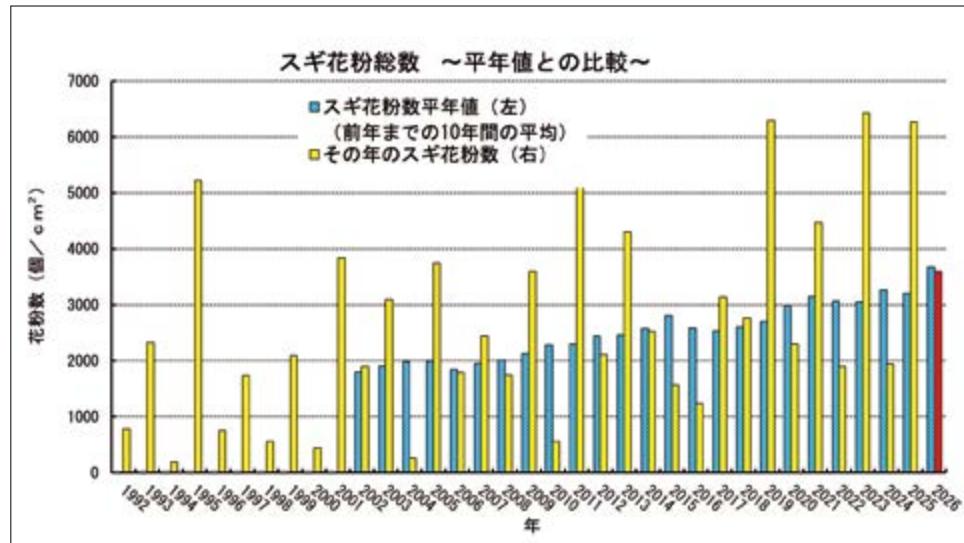


図9 スギ総数（平年との比較）



図10 mt 地点のヒノキ (2024年秋)



図11 mt 地点のヒノキ (2025年秋)